

# アグリゲーション技術の新たな活用

## JAL中国線SMS運航情報サービス

2001年の秋頃から金融機関で始まったアグリゲーションサービスは、いま銀行、証券、クレジットカードから、ポータルサイトや航空会社など、さまざまな業種で提供されるようになってきている。本稿では、携帯電話を利用した日本航空（以下、JAL）の中国線運航情報サービスを例に、アグリゲーション技術の新たな活用方法について紹介する。

### アグリゲーションサービスの技術要素

アグリゲーションサービスとは、インターネット上のさまざまなサイトで提供されているサービスを統合し、あたかも1つのサイトを利用しているような操作を提供するサービスである。その代表的なものに、利用者がインターネット上でIDとパスワードを1回入力するだけで、複数の金融機関の口座情報を一括して表示するアカウントアグリゲーションサービスがある。

このようなアグリゲーションサービスを支えているおもな技術的要素には以下のものがある。

IDとパスワードの入力を必要とするアグリゲーション対象サイトにログインする場合、利用者が一度IDとパスワードを登録しておく、2回目からはIDとパスワードを入力することなく、対象サイトにログインできる（シングルサインオン）。

あらかじめ情報を取得するサイトを指定しておくことにより、利用者の要求に応じてその指定された複数のサイトから情報を取得し、あらかじめ決められたフォーマットに変換して一覧表示することができる。

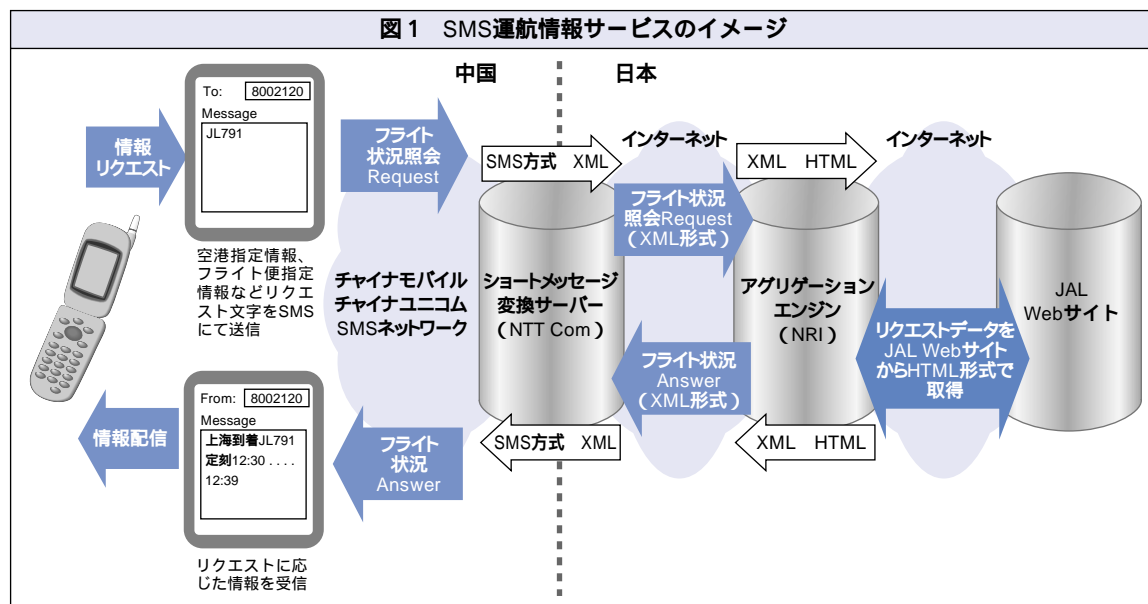
アグリゲーション対象サイトのアプリケーションエンジン（検索エンジンなど）を自動でコントロールし、その結果を取得できる。

アグリゲーション対象サイトのHTML（Webページの記述言語）形式、CGI（Webブラウザの要求に応じてサーバーがプログラムを起動する仕組み）形式、XML（拡張可能なマークアップ言語）形式などが異なっても情報を取得することができ、かつアグリゲーションエンジンを介することでインタフェースの形式を自由に相互変換できる。

### SMS運航情報サービス

JALでは2006年3月から、JAL中国路線の出発または到着時間の情報をリアルタイムで閲覧できる「JAL中国線SMS（ショートメッセージサービス）運航情報サービス」を提供している（<http://www.nri.co.jp/news/2006/060322.html>）。

利用者が中国国内の携帯電話から指定された電話番号にSMSで「リクエスト文字」を送ると、数秒～数十秒後にリクエストした中国線の運航情報（「定刻」「予定」「実際」）を



携帯電話で受信することができる。情報は個別の便または路線別に確認でき、また中国～日本間の路線についても運航情報を取得することができる。

このサービスには、野村総合研究所（NRI）がJALに提供しているアグリゲーションサービスの技術が応用されている。

まず、情報の取得場所としてJALのモバイル専用Webサイト（www.mobile.jal.co.jp）があらかじめ指定されている。ここからアグリゲーション技術によってHTML形式で取得された中国線の運航情報は、アグリゲーションエンジンによってXML形式に変換され、NTTコミュニケーションズ社の中国向け携帯電話SMS提供サーバーに送信される。この情報が、ショートメッセージ変換プラットフォームを経由して、中国国内の携帯電話会

社（チャイナモバイル社、チャイナユニコム社）に配信されるという仕組みである（図1参照）。

### 新たなインターネットサービスを実現するための技術として

前述のように、アグリゲーションサービスは、当初はアカウントアグリゲーションに代表されるパッケージ型のサービスとして提供されてきた。しかしいまでは、ここで紹介したように、アグリゲーション技術は新たな活用の方向に進みつつある。この技術を有効活用することによって、これまで実現し得なかった新たなインターネットサービスを実現することが期待できる。また、そのためのシステム開発のコストと工期の削減も同時に可能となるのである。